

# 令和7年度大分県高校総体登山縦走競技コースマップ



# 令和7年度 大分県高等学校総合体育大会【登山縦走競技】 予報1号

## 1 大会山域の歴史と自然

### ■大会山域の概要

本大会の会場は九州山地の中核をなす祖母傾山系である。大会コースは山系の雄ともいえる祖母山 (1756.4m) 及び祖母山の西張り出した尾根から大分県側に延びる支尾根に位置する緩木山 (1046m) である。

大会の会場一体は祖母山と対をなす一方の雄である傾山 (1605m) と合わせて祖母傾山系と呼ばれることがある。祖母山系は大分県と宮崎県、熊本県の3県にまたがっており、祖母山・傾山などの山々が作り出す稜線が大分県と宮崎県の県境をなしている。祖母山系は1965年(昭和40年)に祖母傾国定公園の指定を受けており、大分県及び宮崎県の県立自然公園でもある。さらに祖母山・傾山・大崩山 (1643m)を中心とした国連教育科学文化機関(ユネスコ)の生物圏保護区「ユネスコエコパーク」にも登録されており、手つかずの豊かな自然が残る土地といえる。また、隣県の熊本県の阿蘇には阿蘇ジオパークが広がるなど、祖母・くじゅう・阿蘇は大自然に豊かな地域であることを物語っている。

### ■祖母山系の地質

祖母山系は新生代の火山活動によって誕生した山々である。新生代に6回の大噴火があり、3回目と4回目の大噴火の間に傾山カルデラが生じ、次いで祖母山カルデラを生じる大陥没があったと見られている。しかし、4回目以降の噴火による火山噴出物でこれらの陥没は埋没してしまっており、現在はつきりとしたカルデラを見ることはできない。噴火は溶岩と火山灰あるいは火山礫(かざんれき)を噴出し、溶岩と火山碎屑岩(さいせつがん)が交互に重なった一種の成層火山とみられている。祖母山周辺は「安山岩」(火山岩の一種、日本で最も多い岩石)、傾山周辺には「流紋岩」(酸性火山岩の一種でしま状の構造をもつ岩石)が多くみられる。カルデラ火山である祖母山・傾山は、噴火後に火口一帯が陥没して大きくくぼんだため複雑な地形を作り出した。加えて、阿蘇火山による火碎流などの噴出物に

よる堆積も見られる。祖母山系はこうした複雑な地形や地質という特徴をもち、各所に見られるそばだつ岩峰や岩壁、切れ込んだ渓谷はこうした激しい噴火の跡を今に伝えている。

また、祖母山の北斜面には「臼杵一八代構造線」が通っていると考えられている。この構造線は臼杵から三重町を経由し祖母山の北斜面に延び、熊本県の八代市に至ると見られる。中央構造線は長野県諏訪湖周辺から九州の八代周辺に延びとされる世界第一級の断層であり、この臼杵一八代構造線は九州延長線の一つとして有力視されている。



大分県の地体構造<sup>4)</sup>

### ■祖母山と鉱物資源

こうした度重なる火山の噴火や地質の変化により、錫(スズ)などの金属鉱床があらゆる場所に生成されたため多くの鉱山がにぎわった。鉱物の種類は150種を超え、日本で産出される全種類の鉱物のうち30%を占めるほど種類が多いことが特徴である。大分県側では尾平(オビラ)、九折(ツヅラ)、木浦(キウラ)鉱山、宮崎県側には見立(ミタテ)、土呂久(トロク)などの鉱山が栄えた。その中でも尾平鉱山で産出される鉱物の中には「斧石」と呼ばれる珍しいものがあり、斧石は大分県の「県の石」に指定されている。これらの鉱山は江戸時代に開かれ、銅、錫、鉛などが産出された。戦後もしばらく生産が続けられたが現在ではほとんどが閉山している。閉山後の現在でも公害対策としてカドミウムの中和作業が行われているようだ。

## ■祖母山系の水系と生態系

祖母山を源流とする水系も多く、大分市まで流れている大野川や支流の緒方川、神原川、奥岳川などが挙げられる。源流部にはV字谷が発達しており、大会会場周辺には神原渓谷があり、そのほかにも数多の谷や渓谷が存在する。

また、祖母山周辺では熊の存在がたびたび議論されるところである。九州ではすでに熊は絶滅したとされているが、祖母山系で熊を目撃したとの噂もある。1987年傾山系の笠松山で1頭のツキノワグマが射殺されて大きなニュースとなった。それ以後、目撃情報もあるが真偽は不明。祖母山系の野生動物の代表格はニホンカモシカである。

## 2 大会コースの山

### 【祖母山（そぼさん） 標高：1756.4m】

祖母山はかつて久住山や大船山と並び、九州最高峰を争った山であり九州屈指の山といえる。くじゅう山系の山容が女性的といわれるのに対して、祖母山系はその名に反して男性的な山容と称される。（こうした表現は古くより山容の比喩表現として用いられたものであるためご容赦願いたい。）その堂々たる山容からかつては九州最高峰とされた時期もあったが、標高ではなくじゅう山系の中岳（1791m）、久住山（1786.5m）、大船山（1786.3m）、星生山（1762m）、稻星山（1774m）に次ぐ高峰である。

祖母山の名が示すように山岳信仰の対象とされた歴史的な山でもある。その名の由来は日本の初代天皇と伝わる神武天皇の祖母「豊玉姫命（トヨタマヒメノミコト）」を祀ることからきている。別名では「姥岳（ウバタケ）」や「嫗ヶ嶽（ウバガダケ）」や「祖母嶽（オバガダケ）」などと呼ばれた。その古名に由来するウバタケニンジンという固有種が存在する。さらに、それより以前は「添利山（添山）」と書いて「ソホリノヤマ」と呼ばれていた。天孫降臨について書かれた日本書紀の記述には

「高千穂の添山の峰」というものがあり、実は天孫降臨の地は宮崎県と鹿児島県にまたがる霧島山系にある高千穂峰ではなく、この祖母山だったのかもしれない。ちなみに天孫降臨の「天」は「天照大御神（アマテラスオオミカミ）」のことであり、「孫」は「瓊瓈杵尊（ニニ

ギノミコト）」である。このニニギノミコトは日本の初代天皇である神武天皇の曾祖父にあたる。

初代天皇の神武天皇が九州から近畿へ移動したいわゆる神武東征のエピソードとして、紀州沖で台風によって船が沈没しそうになったとき、祖母の故国である祖母山の方角に祈念すると波が穏やかになったという伝説がある。神武東征に関するエピソードは九州に多く残っており、地元の伝説を調べてみるのも面白いだろう。

さらに豊玉姫よりもさらに古い話では、祖母山の神様は男性的な山容どおりの男神である「健男霜凝日子（タケオシモゴリヒコ）」であると伝わる。その名を冠した神社の下宮が神原（こうばる）の健男霜凝日子神社であり、山頂にはその上宮の石祠がある。このほかにも神原周辺に「健男社」と呼ばれる神社が多いのはそのためである。また、宮崎県側にある祖母嶽神社の上宮も祖母山頂にある。

こうした日本神話に関する伝説は祖母山の南に位置する「古祖母山（1633.1m）」にもみられ、祖母山より以前に豊玉姫命がこの山からより高い現在の祖母山へ移ったことから古祖母と名がついたと伝わる。祖母山の麓近くには日本神話で有名な高千穂があり、祖母山はそうした日本に古来より伝わる神様や神話と関わりの深い山といえる。

近代ではスポーツ登山の対象として盛んに登られる山でもあり、イギリス人のウォーテー・ウェ斯顿が熊本県の高森町から五ヶ所を経由して登頂した上で祖母山近くの三秀台には記念碑が立っている。このウォルター・ウェ斯顿は明治23年に北アルプスを登った人物であり、日本アルプスの名付け親ともいわれる。

こうした事からわかるように祖母山は火山活動によって育まれた複雑で豊かな生態系をもつとともに人々の生活や日本の文化と密接な関係を持つ山であることがわかる。

### 【緩木山（ゆるぎさん） 標高：1046m】

古くは「由留木」とも書かれた山。緩木山の麓には幕営地そばに緩木神社（緩木社）があるが、これは下宮であり緩木山の中腹に上宮がある。もともとは上宮（元宮）とされている場所に鎮座していたが、戦国時代の1584年（天正12年）大友宗麟による寺社排撃による焼き

討ち、1586年（天正14年）の薩摩軍侵攻による焼き討ちに見舞われ、短期間に2度も社殿が破壊された。その後再興もされたが、参拝までの道のりも厳しく、冬季の祭典も困難なため江戸時代の1694年（元禄7年）に現在地に遷座した。建立当初は高源寺（こうげんじ）と呼ばれていたが、前述の大友氏による焼き打ちにより廃退し、その名は近くの村名（高源寺村）として残っている。

緩木神社の由緒は西暦82年に景行天皇が土蜘蛛（ヤマト王権に恭順しなかった土着の豪族の総称）征伐の折、この土地を訪れて御神体に伊弉諾命（イザナギノミコト）と伊弉冉命（イザナミノミコト）の二柱を祀ったことにはじまる。さらに御神体として、新たに西暦281年（養和元年）、英彦山の高僧「覺満」が緩木山で修行中に不思議な現象に遭遇して、英彦山の主祭神（英彦山権現）である天之忍穂耳命（アメノオシホホミノミコト）を併せて祀り、前述の三柱ほか八柱が緩木神社の御神体である。このように緩木神社は英彦山と縁の深い場所である。大分県下には英彦山の影響を受けた文化が数多く残されている。緩木神社の境内には「緩木神社の松」として国の天然記念物に指定されていた松があったが、枯死したため現在は切り株が社殿に収められている。また、緩木山自体も歴史ある山で、麓の緩木神社や山頂の緩木城、中腹の高城などに代表されるように、特に戦国時代の大友氏統治期には天然の砦（山城）として使われ、度々戦いの場となっている。緩木山周辺には現在の三県境があるように、古来より豊後の最西端の国境に位置していたため重要視されたのだろう。

緩木城は平安時代末期の永暦元年（1160年）に平清盛の長男、平重盛によって築かれ、その家臣の中尾氏に守備させたことがはじまりとされる。その後、平家が滅亡すると中尾氏は大友一門となり、緩木神社のほかにも多くの寺社を創建したようで、しばらく中尾氏がこの地を治めていたようだ。しかし、時代は流れてキリスト教として知られる大友宗麟による寺社の焼き討ちに異を唱えたことで、1584年（天正12年）に大友軍によって攻められた。大友宗麟はキリスト教に熱心になるあまりに領内の寺社を焼き打ちしており、寺社にとっ

ては暗い時代であった。前述のようにこの折、緩木神社は一度焼き打ちにあっており、中尾氏が建立した寺社の多くも焼き打ちにあったようだ。その後は中尾氏に代わり、大友一門の入田氏が治めたが、2年後には薩摩の島津氏が豊後へ侵攻すると入田氏は島津へ寝返った。なおこの時、入田氏家臣にいた志賀親次だけは寝返らずに島津軍に抵抗し、岡城を守り切った人物として伝わっている。その際、再び緩木神社は焼き打ちされた。

緩木山頂付近に残る遺構は1550年（天文19年）に入田氏によって築かれたとされる緩木城のものが残っているが、素人にははっきりとは分からぬ。遺構として見られるのは山頂を主郭とし、北と西に段曲輪がある程度であり、堀はないものとみられる。このように山頂に城が築かれた話はよくあることで、有名なところではお猿で有名な高崎山もそのひとつ。また、緩木城は九重野集落から見て手前に位置する「高城」とともに山城として機能していたようである。高城は九重野集落から見ると手前に位置しており緩木山よりも目立つ円錐形の山である。文献によれば緩木山から祖母山・越敷岳分岐へと延びる尾根の途中にある1060mピーカーを高城や高城跡としているがこれは誤りであり、本来の高城（跡）は緩木山の北北西にある標高778mの名もなきピーカーである。



二の鳥居と緩木神社

### 3 コース概況 **太字下線**は主要地点

幕営地のあ祖母学舎からバスで移動し、豊姫橋で下車する。「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク 祖母山神原登山口一合目駐車場」

「禁漁・禁放流区」の看板のある神原登山口分岐から、車一台が通れる幅の車道を上がっていこう。

しばらく歩くと、左手に第2駐車場が見えてくる。車道はその先も続いているが、左カーブの付け根に登山道に入る階段があり、「九州自然歩道（祖母山登山口）（一合目の滝）入口」と書かれた看板が立っている。



木の階段から尾根に上がる

木の階段を上って尾根に乗り、左へ進む。しばらくするとT字路にぶつかる。右手に進むと一合目の滝であるが、ここは寄り道をせずに左手に進もう。階段をもうひと登りすると、神原登山口第1駐車場のトイレの脇に出る。



神原登山口第1駐車場の立派なトイレ

第1駐車場は車15台分程のスペースがあるが、登山シーズンは車でいっぱいになる。休憩する場合は、邪魔にならないように注意したい。立派なトイレがあるので、用は済ませておこう。ここから国観峠までチーム行動となる。

駐車場から少し登り返すと、「入山者手動カウンター」と「登山届ポスト」がある。車道をゆるやかに登っていくと、数分で「日本百名山祖母山」と書かれた看板があり、左手に道が続いている。五合目渓谷トレッキングコースの入口であるが、今回は車道を直進する。2～3分歩くと、「祖母山頂へ 本登山道コース」と書かれた看板があるので、ここから左手の登山道に入ろう。



本登山道コース入口

しばらくは木の階段が続き、尾根をトラバースするように渓谷沿いに進んでいく。道には数々の案内板が設置されている。しばらくするとかつての山に入る際に身を清めた「御社の滝」があり、標高860m付近の五合目小屋が見えてくる。五合目小屋は良く整備されており水洗トイレも設置されている。



五合目小屋

ここから本格的な登りとなる。しばらくは木の階段の登山道が続く。940m地点で左岸から右岸へ渡る渡渉点に至る。テープやロープ、木の階段があるが、間違って沢沿いに登ってしまわないように注意しよう。また、渡渉後、すぐに右折して尾根に上がるのだが、やや広い場所となっているので、雨天時や霧が出た際にはまっすぐに進んでしまう可能性がある。迷わないように注意して欲しい。



渡渉点



渡渉点にかかる木の階段を登ったら、すぐに右折する

尾根に上がれば、あとはひたすら国観峠を目指す。岩場や斜面の切れ落ちた箇所もあるので油断は禁物。特に木の根っこにつまずかないようにしたい。国観峠に近づくにつれて尾根は細くなる。休憩を取る際には、他のチームや登山者の邪魔にならないようにしたい。1360m地点に「いのち水」という水場があるが、最近は枯れていることが多い。

開けた草の原が広がる国観峠(1486m)に出ると、赤い帽子と上着を着たお地蔵様が出迎えてくれる。国観峠は緊急時にはヘリポートとなる。ここでチーム行動は終了である。



国観峠

国観峠から山頂まではサブザックで往復する。登山道は構のようにえぐれており、それを避けるように複数の新しい道がつけられているので迷わないように注意しよう。途中で九合目小屋分岐と出合うが、直接山頂へ向かう。九合目小屋は「あけぼの山荘」と呼ばれており、トイレ、水場、テントサイトがある。



九合目小屋との分岐の看板 Q合目小屋と書かれている

山頂直下はガレ場で、ロープも取り付けられている。地面はいつも少し濡れている。



山頂直下のガレ場

北谷登山口からのルートと合流し、左手に進むと祖母山（1756.4m）山頂である。

祖母山山頂からは雄大なパノラマが広がり九州の主峰を見渡すことができる。山頂の北方面には黒岳（1587m）、大船山、稻星山、久住山、扇ヶ鼻（1698m）などダイナミックなくじゅう山系を見渡すことができる、また、西には阿蘇五岳（根子岳1433m・高岳1592m・中岳1506m・烏帽子岳1337m・杵島岳1326m）を中心とした阿蘇の山々と草原が広がっている。特にゴジラの背のような鋭い稜線の根子岳は印象に残る。さらに東から南にかけては傾山、障子岳（1709m）、古祖母山、親父山（1644m）などの祖母山系の雄々たる山々が広がる。



祖母山山頂からくじゅう連峰を望む

雄大な山頂からの景色を堪能したら下山を開始する。ガレ場ではスリップしないように注意しよう。往路をそのまま国観峠まで下りる。国観峠で昼食休憩である。これから長い下りに備えて、ゆっくりと身体を休めよう。

国観峠から右の登山道に進めば神原登山口方面、左の登山道に進めば五ヶ所、北谷登山口方面である。ここは左へと進路を取る。なだらかで広く、歩きやすい尾根道が続き、ほどなく三県境に到着する。



三県境の分岐

三県境は、大分県と宮崎県、熊本県の県境が重なる地点である。宮崎県高千穂町五ヶ所から延びる千間平コースとの合流点でもある。三県境の周辺は「(御)茶屋場」とも呼ばれている。昔、延岡藩の内藤氏が登山した際に、ここでお茶を点てたと言われている。

ここから右折し、進路を北西の緩木山方向へ向ける。道はあまり明瞭ではないが、ピンクテープが導いてくれる。なだらかで、木と木の間隔の広い樹林帯なので、ルートを外さないように注意しよう。しばらくすると明瞭な尾根歩きになるが、稜線が細く、傾斜が急であるため、膝に負担が大きい。

しばらくすると、烏帽子山（1296.1m）が見えてくる。その名の通り、烏帽子のような形をしている。烏帽子山への登り返しは、距離は短いが精神的に疲れるところなので頑張ろう。山頂からの展望はよいのだが、今回は山頂には寄らず、トラバースして先を急ぐ。烏帽子山からの稜線を少し下った1210m地点から左（西方向）へと90度進路を変える。今回のコースで最も傾斜が急な傾斜である。しっかりとロープが張られているので、ロープの助けも借りながら慎重に降りていこう。



烏帽子山過ぎ 1210m地点の急降ロープ場

下りきると左手に展望が開けた眺めのよい稜線となる。この稜線も細く、まっすぐ一直線に降りていく。

鞍部に到着すると、ここが緩木山・越敷岳分岐である。「祖母山、緩木、越敷岳」の各方向を示した看板が立っている。緩木山方面に向かって、さらに尾根を下っていこう。



緩木山・越敷岳分岐の看板

「ブナ原生林」と書かれた看板を通り過ぎ、1060mピークを登り返す。その後も緩木山まではアップダウンが連続する。しっかりと体力トレーニングを積んでおいて欲しい。しばらく進むと緩木山分岐の看板が出てくる。ほんの少し登り返すと緩木山(1045m)の山頂に到着する。ここには緩木城の遺構が残るが、展望はあまり良くない。



緩木山の山頂

山頂から緩木山分岐まで戻り、分岐を右に進む。しばらく下ると、緩木神社元宮との分岐に至るが、元宮には寄らずに左へ進む。すぐに五輪塔（展望所）分岐に至る。五輪塔は1584年（天正12年）に大友軍の侵攻の際に犠牲となった地元将軍の供養塔と伝わっている。五輪塔も立ち寄らずに、右に下る。

ここからは谷筋のガレ場になる。標識や目印のテープがしっかりと付けられているので迷うことはないが、疲れもたまってきているので、足をくじかないように注意したい。

舗装された急な下り坂に出たら今回の山行も終わりに近い。急坂を下りきると舗装された車道は右へと続いているが、青とピンクのテープの付けられたショートカット登山道入口から下る。草がかぶっているが、道はしっかりとしている。



ショートカット登山口入口 矢印方向に真っ直ぐに進む

すぐに再び車道にぶつかるので、左へ進む。砂防ダム、越敷岳登山口分岐を過ぎてしばらくすると県道639号線に出る。道路を渡ると車6台ほど駐車できる緩木山登山口駐車場がある。登山行動は終了である。ここからは輸送計画に従って[あ祖母学舎](#)へと向かう。



緩木山登山口駐車場

## 4 主な地点名

- ・あ祖母学舎
- ・健男霜凝日子社
- ・県道 639 号（神原玉来線）沿いスタート地点
- ・神原登山口分岐
- ・祖母山一合目登山口
- ・一合目の滝
- ・神原登山口第 1 駐車場
- ・本登山道コース入口
- ・御社の滝
- ・五合目小屋
- ・渡渉点
- ・いのち水
- ・国観峠
- ・九合目小屋分岐
- ・九合目小屋（あけぼの山荘）
- ・祖母山
- ・障子岳
- ・三県境（茶屋場）
- ・烏帽子山
- ・緩木山・越敷岳分岐
- ・緩木山分岐
- ・緩木山
- ・五輪塔（展望所）分岐
- ・ショートカット登山道入口
- ・越敷岳登山口分岐
- ・緩木山登山口駐車場
- ・越敷岳
- ・千間平
- ・北谷登山口
- ・神原（熊本県側）
- ・五ヶ所
- ・尾平登山口
- ・宮原
- ・馬の背
- ・池の原
- ・黒金山尾根
- ・白水
- ・あそぼう がくしゃ
- ・たけおしもごりひこしゃ
- ・けんどう 639 ごう（こうばるたまらいせん）ぞいスタートちてん
- ・こうばる とざんぐち ぶんき
- ・そぼさん いちごうめ とざんぐち
- ・いちごうめのたき
- ・こうばる とざんぐち だいいちちゅうしやじょう
- ・ほん とざんどう コースいりぐち
- ・おやしろのたき
- ・ごごうめごや
- ・としようてん
- ・いのちみず
- ・くにみとうげ
- ・きゅうごうめごや ぶんき
- ・きゅうごうめごや（あけぼのさんそう）
- ・そぼさん
- ・しょうじだけ
- ・さんけんざかい（ちややば）
- ・えぼしやま
- ・ゆるぎさん・こしきだけ ぶんき
- ・ゆるぎさん ぶんき
- ・ゆるぎさん
- ・ごりんとう（てんぼうしょ）ぶんき
- ・ショートカット とざんどう いりぐち
- ・こしきだけ とざんぐち ぶんき
- ・ゆるぎさん とざんぐち ちゅうしやじょう
- ・こしきだけ
- ・せんげんだいら
- ・きたたに とざんぐち
- ・こうら（くまもとけんがわ）
- ・ごかしょ
- ・おびら とざんぐち
- ・みやばる（みやのはる）
- ・うまのせ
- ・いけのはる
- ・くろがねやま おね
- ・しろうず

# 第73回大分県高等学校総合体育大会登山競技（縦走）予報2号

## 1. 日程・コース

### 5月31日（土）開会式・各種審査

(貸し切りバス) 明豊高校 09:00 発 → 大分工業高校 10:00 発  
(マイクロバス) 竹田高校 11:00 発  
11:20 あ祖母学舎 着 ※選手は体育館等で昼食・休憩  
11:45 監督会議・審判会議 ※監督は会議の決定事項について必ず選手に伝えること  
13:30 開会式（体育館）  
14:00 ペーパーテスト（ランチルーム）・天気図審査（図書室）  
15:00 装備審査（体育館）  
16:00 設営審査（選手幕营地：グラウンド）  
17:30 炊事審査  
21:00 就寝

### 6月1日（日）登山行動日

04:00 起床・朝食・準備・撤収審査  
05:40 あ祖母学舎駐車場 集合完了 …… B・D隊サブ行動  
05:30 あ祖母学舎 発 移動（マイクロバスによりピストン輸送）  
05:30 第1便発：A隊・C隊・D隊 …… 20名 救護隊役員…5名 合計 25名  
公用車1（大石車）：審判…3名 公用車2（久井田車）：審判…3名 合計 6名  
公用車3（木村車）：登山隊長・登山隊役員（C L・S L） …… 6名 合計 7名  
05:50 神原登山口分岐 到着後、隊行動により神原登山口第1駐車場に移動（A隊・C隊・D隊）  
06:10 第2便発：B隊・支援・救護補助員 …… 21名 支援隊役員…4名 合計 25名  
06:30 神原登山口分岐 到着後、隊行動により神原登山口第1駐車場に移動（B隊・支援・救護補助員）  
06:40 神原登山口第1駐車場 全隊・行動隊役員 到着完了  
06:50 神原登山口第1駐車場 発 **A・C隊チーム行動開始**  
07:30 五合目小屋  
09:30 国観峠 着 休憩 **A・C隊チーム行動終了**  
※ 規定期間 A隊：2時間20分 制限時間：2時間40分  
C隊：2時間40分 制限時間：3時間00分  
10:00 国観峠 発 **A・C隊サブ行動開始** （デポしたザックの監視は行動隊役員が行うこと）  
10:40 祖母山（1756.4m）着  
10:50 祖母山（1756.4m）発  
11:20 国観峠 着 **A・C隊サブ行動終了** 昼食・休憩  
12:50 国観峠 発  
12:10 三県境  
12:40 細木山・越敷岳分岐  
13:40 細木山（1045m） 着 休憩  
14:50 細木山（1045m） 発  
15:10 細木山登山口駐車場 着 登山行動終了  
15:20 細木山登山口駐車場 発 移動（マイクロバスによりピストン輸送）  
15:20 第1便発：A隊・C隊・D隊 …… 20名 救護隊役員…5名 合計 25名  
16:00 第2便発：B隊・支援・救護補助員 …… 21名 支援隊役員…3名 合計 24名

公用車1 (大石車) :審判…3名 公用車2 (久井田車) :審判…3名 合計 6名  
 公用車3 (木村車) :登山隊長・登山隊役員 (CL・SL) …7名

16:20 あ祖母学舎 全隊・行動隊役員 到着完了  
 17:30 設営審査 ※ 審査の実施は審判団の判断に委ねる  
 18:00 炊事審査・夕食 ※ 審査の実施は審判団の判断に委ねる  
 19:30 入浴  
 21:00 就寝

### 6月2日(月)閉会式・表彰式

06:00 起床・朝食  
 08:30 講演会:「祖母山の命を守る旅～自然と共に生きる私たち～」  
     講師:後藤こずえ 氏 (MMS21会員・インタープリター)  
 09:30 講評・閉会式(成績発表・表彰式)(あ祖母学舎体育館)  
 10:30 解散  
 11:00 あ祖母学舎 発  
 (貸し切りバス) あ祖母学舎 → 大分工業高校 12:30 → 明豊高校 13:30 着  
 (マイクロバス) あ祖母学舎 → 竹田高校 11:30

## 2. 医療機関等

	施設名	所在地	電話番号
医療機関 (休日当番医)	大久保病院 (5月31日 13:00~21:00)	竹田市久住町大字栢木 6026-2	0974-64-7777
	竹田医師会病院 (6月1日 9:00~21:00)	竹田市大字押田原 448 番地	0974-63-3241
警察関係	竹田警察署	大分県竹田市大字押田原 221	0974-63-2131
消防関係	竹田市消防署	大分県竹田市大字会々 2742-1	0974-63-0119

## 3. 荒天対策 ※ 荒天状況によりコース変更あり

	第1日(5/31)の行動	第2日(6/1)の行動	第3日(6/2)の行動
第1日 荒天	計画通り	計画通り	計画通り
第2日 荒天	—	サブザック行動 (状況によりコース変更)	計画通り
第3日 荒天	—	—	計画通り

## 4. 連絡事項

### (1) 審査内容について

今大会の審査は全国高等学校登山大会＜審査基準と指導目標＞及び全国高等学校登山大会審査確認事例に準じます。また、すべての審査を実施します。

### (2) 炊事について

食事は各チームで準備すること。

### (3) 携帯電話（スマートフォン）について

「審査確認事例 12(6)」にあるとおり、G P S機能を有する機器は、所持してはいけませんが、選手の安全を確保するためにチームに1台ずつ携帯電話（スマートフォン）の所持を認めます。ただし、受付時に封印をし、緊急時のみ連絡が取れるようにします。